



ゆかたびらとたっつけ（花祭装束） 衣の民俗館蔵

三河地方にみる花祭装束は、意匠的価値が高く地域・行事次第による特色がみられる。ここにあげた装束は、藍染木綿に白く十六弁の菊花と斜線の文様を型染にしたものである。十六弁の菊花は皇室の紋章にみられるが、花祭装束に用いられていたことは、花祭の地域が皇室との関連をいくつかの口述により伝承していることによるものであろうか、この菊花文様は他の装束にもみられる。これらの意匠は明治以降のものであり、天皇家の勢威が明治期に高まるにつれて伝承を自覚した結果かと思われる。しかし、確証を得ることは困難である。

花祭装束はまた、神楽・山伏修験道・陰陽道などの要素をもつことから、激しい舞による消耗が大きく、初期の資料の保存が極めて困難である。従って、江戸末期にみる一部の資料を除いては明治以降のものが多い。

また、装束類は信仰とのかかわりをもち、郷土から移動しないことを信条とされている。この資料は、旧曾川の三つ舞・四つ舞装束の復元である。

（『衣の民俗館・日本風俗史学会中部支部研究紀要』第4号、平成6年 館長 高橋春子）

目 次

●平成6年度愛知県博物館協会総会報告	2
●愛知県博物館協会設立30周年記念事業報告	3
●新規加盟館紹介	5

平成6年度

愛知県博物館協会総会報告

平成6年度愛知県博物館協会の総会が、6月6日(月)名古屋市中央区の「電気文化会館」で開催され、参加館67館、115人の出席がありました。以下総会の概略を報告します。

1. 会長挨拶…山田敬二氏(愛知県陶磁資料館館長)
2. 表彰…日本モンキーセンター主任 高井正夫氏
三河武士の館家康館 松葉八十美氏
博物館明治村主任 横井欽也氏
博物館明治村管理リーダー 吉田貞治氏



3. 新規加盟館紹介
佐織町中央公民館歴史民俗資料室
津島児童科学館
豊川閣寺寶館
はとギャラリー冬青書屋
4. 議 事(座長 愛知県陶磁資料館館長 山田敬二氏)

(1)平成5年度事業報告及び決算報告について

(イ)研修会の実施

(A)愛知県博物館等職員研修会

平成5年9月2日～3日 鳳来町山びこの丘
新館研修棟

(B)部門別研修会

①歴史民俗部門

平成6年2月9日 熱田神宮龍影閣

②自然科学部門

平成6年2月16日 名古屋市科学館

③美術部門

平成6年2月24日 昭和美術館

(ロ)東海地区博物館連絡協議会総会の開催

平成5年7月6日～7日 名古屋市

(ハ)第18回東海三県博物館協会交流研修会の開催

平成5年11月26日～27日 豊橋市

(ニ)表彰の実施

功労賞3名(氏名略)

(ホ)印刷物の作製・配布

(A)「おでかけガイド—愛知の博物館」の発行
春、秋、計2回

(B)協会報「愛知の博物館」の発行 No58～59

(ヘ)会 議

(A)総会1回 (B)理事会1回 (C)実行委員会及び
30周年記念事業チーム会議11回

(ト)平成5年度新規加盟館の報告 4館(館名略)

(チ)平成5年度退会館の報告 1館

(リ)平成5年度収支報告(監査報告 昭和美術館)

以上説明の後、審議されいずれも承認されました。

(2)役員改選について

別表の如く任期満了に伴い役員改選の提案(理事1名増員)と説明がされ、審議の後、原案通り承認されました。

(3)平成6年度事業計画及び予算について

(イ)事 業

(A)30周年記念式典、記念講演、祝賀会の開催

◎期日 平成6年6月6日(月)

◎会場 電気文化会館

(B)愛知県博物館等職員研修会

愛知県教育委員会と共催で、博物館関係施設に勤務する職員を対象として行う。

◎期日 平成6年9月1日(木)～2日(金)

◎会場 津島市

(C)部門別研修会

美術部門、歴史民俗部門、自然科学部門

◎期日・会場 未定

(D)平成6年度東海地区博物館連絡協議会総会

◎期日 平成6年6月16日(木)～17日(金)

◎会場 山梨県甲府市

(E)第19回東海三県博物館協会交流研修会

◎期日 平成6年10月4日(火)～5日(水)

◎会場 岐阜県岐阜市

(F)表彰(前記、2.のとおり)

(G)印刷物の発行・配布

協会報「愛知の博物館」、「東西南北」、「おでかけガイド」

(ロ)会 議

30周年記念式典 1回

総 会 1回

理事会 2回

実行委員会 12回

(ハ)平成6年度予算(案)

以上説明の後、審議されいずれも承認されました。

(文責 愛博協事務局)

愛知県博物館協会新役員名簿

平成6・7年度

役職名	館(園)名	代表者名	備考
理事	愛知県陶磁資料館	館長山田 敬二	会長
"	熱田神宮宝物館	館長岡地 幸雄	副会長
"	一宮市博物館	館長小川 守	
"	岡崎市郷土館	館長成田 守彦	
"	蟹江町歴史民俗資料館	館長北川 鉄裕	
"	知多市民俗資料館	館長伊藤 昭正	
"	知立市歴史民俗資料館	館長羽佐田 銀弘	
"	でんきの科学館	館長寺沢 安正	
"	徳川美術館	館長徳川 義宣	
"	豊橋市自然史博物館	館長古山 保夫	
"	名古屋市科学館	館長樋口 敬二	
"	名古屋市博物館	館長清水 武	
"	日本モンキーセンター	園長小寺 重孝	
"	博物館明治村	館長村松 貞次郎	
"	鳳来寺山自然科学博物館	館長松井 保	
監事	愛知県美術館	館長浅野 徹	
"	昭和美術館	館長柳沢 幸輝	

役員改選に伴う実行委員名簿

平成6・7年度

館(園)名	委員氏名	備考
愛知県陶磁資料館	浅田 員由	(会長館)
熱田神宮宝物館	武田 定雄	(副会長館)
一宮市博物館	毛 受英彦	(理事館)
岡崎市郷土館	荒井 信貴	(")
蟹江町歴史民俗資料館	伊藤 和彦	(")
知多市民俗資料館	新美 博英	(")
知立市歴史民俗資料館	近藤 文江	(")
でんきの科学館	大島 明男	(")
徳川美術館	小池 富雄	(")
豊橋市自然史博物館	井澤 伸恵	(")
名古屋市科学館	佐伯 平二	(")
名古屋市博物館	松本 博行	(")
日本モンキーセンター	水野 礼子	(")
博物館明治村	中野 裕子	(")
鳳来寺山自然科学博物館	加藤 貞享	(")
愛知県美術館	木本文 平	(監事館)
昭和美術館	海野 嘉代	(")

愛知県博物館協会事務局

事務局長	小川 嘉彦	愛知県陶磁資料館副館長
事務局	浦山 正幸	" 庶務課長
	村瀬 寛	" 庶務課長補佐
	浅埜 勲	" 庶務課主査

愛知県博物館協会 設立30周年事業報告

(A)記念式典

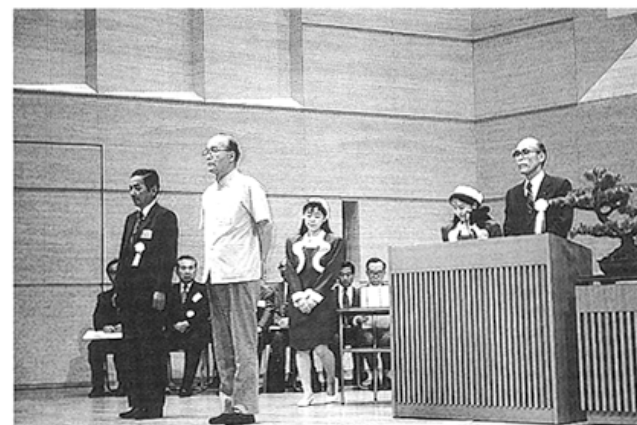
愛知県博物館協会の設立30周年を記念する式典が平成6年6月6日(月)電気文化会館で開催された。当初は名古屋市科学館にて予定されていたが、今春の高調波障害とみられる電力系統の爆発故障のため会場・会期ともに変更を余儀なくされた。このような事態への対応に協力を惜しまれなかった開催館ほか関係の各位にお礼を申し上げたい。



式典は定例の年度総会に引き続いて、午後2時より地下2階のコンサートホールにて開催された。はじめに県博物館協会長・県陶磁資料館長山田敬二氏の式辞があり、続いて来賓の日本博物館協会専務理事毛利正夫氏、愛知県教育委員会教育長野村光宏氏、名古屋市教育委員会教育長剣持一郎氏から祝詞を頂いた。また司会から三重県博物館協会長・鳥羽水族館長中村幸昭氏はじめ来賓諸氏の紹介と祝電が披露された。

次いで当協会の発展に功績があった次の三氏に対して30周年記念表彰があり、表彰状と記念品の花瓶が贈られた。

ヨコタ博物館館長 横田正臣氏
日本モンキーセンター園長 小寺重孝氏
名古屋市科学館学芸課長 三輪 克氏



その後、当協会副会長・熱田神宮宝物館長岡地幸雄氏から参加者への謝辞をもって式典は終了した。(参加者約120人)

(B)記念講演会

式典に引き続き、国立科学博物館館長川村恒明氏を講師に迎え記念講演会が開催された。(講演要旨別項)講演は「文化の時代と博物館」と題され、一時間半に及び、日本の社会が抱える社会教育や博物館の課題とその対応が論じられた。関係者にとっては当面の重大な内容でもあり、講演終了後も熱心な質疑応答がなされた。

(C)祝賀会

夕刻より会場を5階のイベントホールに移し、記念祝賀会が催された。当協会山田会長の挨拶、同岡地副会長の乾杯の音頭の後に、各自懇談し、にぎやかな場となった。最後に名古屋市博物館長清水武氏の万歳の三唱に全員が唱和し、当日の日程を全て終了した。

(D)記念誌

なお、この式典を期して『愛知県博物館協会30年史』(B5版・83ページ・非売品)が出版された。年表をはじめ「協会の現状や課題」、「博物館の展望—学芸員養成を中心として—」など従来の回顧に加えて将来に向う真摯な論考や座談会が収録されており、一読を薦めたい。

記念講演要旨

「文化の時代と博物館」

国立科学博物館館長 川村恒明氏

乏しい文化への支出

「文化の時代」と近頃は言われるが、日本全体を計量的、マクロ的に考えてみると文化庁の年間予算は約500億円であり、教育行政を担当する文部省の1%以下である。日本の芸術文化活動費の総額は、電通総研の試算によると各種文化施設の入場料収入を総合計した約6,000億円である。また一方で総理府の家計調査での支出を基にした約2兆円の数字があげられる。しかしパチンコ業界の年間売上が16兆円(93年)、公営ギャンブルの10兆円、プロスポーツ5兆円と比較すると文化への支出はあまりに乏しい。

生涯学習の必要性増大と貧弱な学習の場

宮沢内閣以来、日本人は年間総労働時間を1,800時間

から1,600時間へ短縮をとり組んできた。加えて長寿の進行と併せて日本の社会全体の余暇が増大し、娯楽や芸術文化、社会教育など多様な需要が生じてきた。

小学校や大学など学校での教育を受ける日本人は総人口の5分の1、約2,500万人であり、そのための学校の総数は約6万校ある。これに対して学校外、つまり社会教育を受ける日本人は1億人いる。社会教育施設の代表である博物館・美術館は近年急速に増加したが、わずかに登録博物館で799館(93年)、日本博物館協会の集計では約3,000館である。学校教育の6万校と比較すれば依然として貧弱である。

社会教育及び博物館振興の問題点と対応策

舞台芸術や学術研究など芸術文化の振興は無限の「金喰い虫」である。最近、朝日新聞の社説にあった日本でのオペラの振興と観覧料値下げのための4ヶ条は、博物館にとっても参考になる。殊に1と2。

1. 国はパトロンになれ(博物館へ国の援助)
2. 企業のやる気を引出せ(税制優遇)
3. ブランド主義を排せ(日本の特別高価を止める)
4. 入場料を多様化せよ(立見席や学生席など)

日本では博物館への資金の流れが不十分である。文化への国民全体の年間支出は多く見積った方でも2兆円と紹介したが、学校教育には26兆円が支出されている。学校法人への税制優遇に比して、博物館へは「特定公益増進法人」に日本博物館協会が近年認定されたがあまりに手薄い。

この違いは学校がカリキュラムから建築に至るまで画一的で、社会から認識が得られやすいために関連法律が整備されているからである。反対に博物館はその活動が各館により個性的で多様であり、法律で画一的に規定するのが不可能だからである。現状の博物館法も不備な点が多く、「国立3館」の博物館も同法の規定する登録博物館に含まれていない。

多種多様な博物館が社会から認識を受ける方法としては、米国の大学の認可基準である「ア kredィテーション・システム」が参考になる。これは米国の教育庁が1880年より始めた方式で、同業者間のチェックが基礎である。例えば医科大学であればアメリカ医科大学協会に加盟しているか、その他複数のグループに加わっているかなどが公的認可の判断基準となる。日本でも博物館法が基準になるのではなく、たとえば「日博協」加盟館かどうか、という民間の実態が反映するように同法へ新たに書込む必要がある。

(文責 実行委員 徳川美術館 小池富雄)

仏教美術品等の修理組織が発足 —愛知・仏教美術研究学会が創立—

平成6年6月29日に愛知・仏教美術研究学会の設立総会が愛知県立芸術大学内で開催されました。この学会の設立趣旨及び事業内容等については次のとおりです。

1 設立趣旨 愛知県及び市町村では、仏教美術品等をそれぞれの団体の指定文化財として指定した場合は、修理等の補助を行っています。その補助額には限度があり所有者や地元の経済的負担は大きくなっています。一方、未指定の仏教美術品等についてはさらに深刻で、破損したまま放置されている場合もあります。これらに対応するためには、営利を目的としない仏教美術品等の修理組織が必要です。

仏教美術品は、信仰対象であるとともに、歴史的な資料として多くの情報を内包し、美術史等の研究に役立つとともに、新たな芸術創作へのヒントも秘めています。その情報を収集・蓄積し研究・創作に反映させることにより、将来の芸術文化の発展を図ることができます。

この学会では、仏教美術品等の修理を通じて得られる各種資料を知的収益とみなし、それを研究・教育に活用することを重視することにより、修理費の節減を実現します。また各事業を通じ、修理技術者の育成も行います。

2 事業内容 (1)仏教美術に関する調査研究・資料の収集作成、保存・修復及び成果発表、(2)仏教美術品の保存・修復技術者の育成・援助、(3)仏教美術研究にかかるシンポジウム等の開催及び諸活動への協力・援助、(4)仏教美術研究にかかる国内・国際交流、(5)その他目的達成に必要な事業

3 組織の概要 (1)代表 山崎隆之(愛知県立芸術大学・教授)、(2)構成員①会員=事業の実行に当たります(会費・年額3,000円)②賛助会員=事業に対し経済的支援を行います(会費・年額1,000円)、(3)会員及び賛助会員の入会を随時受け付け中です。

4 連絡先 愛知県立芸術大学美術学部・山崎研究室
(愛知県長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1)

☎0561-62-1180内線365)

新規加盟館紹介

平成6年度に当協会へ加盟されました館の概要を、ここに紹介します。

世界の民族楽器 船橋楽器資料館



所在地 〒480-11 岩倉市八剣町石橋11

TEL (0587)37-5100

交通 電車 名鉄 犬山線石仏駅下車、徒歩8分
(名神高速添東へ、井上町信号左折、点滅信号角)

バス 名鉄 一宮～小牧、八剣町バス停下車、北へ徒歩8分

車 国道155号、八剣町信号北へ、名神高速北側点滅信号角(駐車場あり)

沿革 サラリーマンだった館長が、消滅しつつある民族楽器に哀惜を感じ、勤務のかたわら20年余海外を歩き、集めた世界の民族楽器1300点の永久保存と修理を目的に自費で立てた私設資料館です。

初期に集めたものは20年も納屋に積み上げて死蔵し、そのまま朽ちさせるのに忍びなく、退職と同時に平成4年5月、借金と退職金で開館しました。

破損して捨てられる運命だった古楽器を集め、修復して順次展示し、現在600余点を公開しておりますが、展示スペースもそろそろ限界で、残りの修理を要するものとこれからも海外収集は続きますから、それらの楽器をどう展示するかが資料館の今後の課題です。

現在各国別に展示していますが、将来もし拡張が可能なら手で触れて音を出せるコーナーを設けたり、国境を取り払って民族別にしたり、歴史や伝播の課程がひとめで理解できるような種類の展示もしたいと夢見ています。

施設 敷地 470㎡
鉄骨、ALC造 2階建 延床面積 361.33㎡
展示室 1階98㎡ 2階52㎡
その他 玄関ホール、2階ホール、会議室、事務室、喫茶室

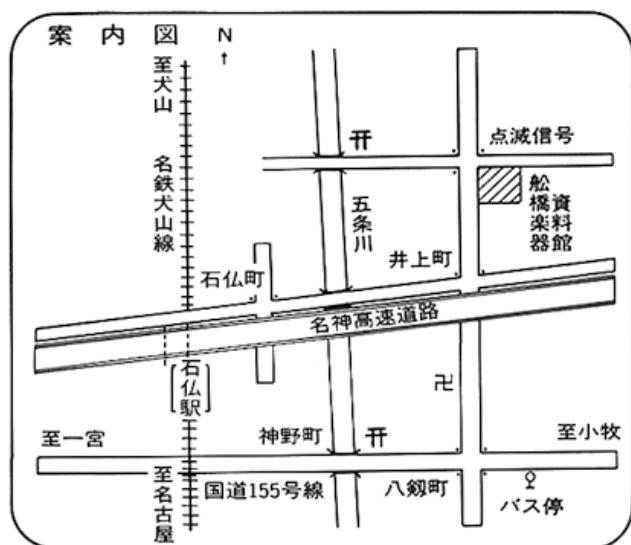
開館 AM10:00～PM5:00

休館日 毎週月曜日(月曜が祝日の場合は火曜日)

入場料 大人500円 大学生400円 中高生300円
小学生200円 団体 20名以上 各々100円引き

特色 有史以前から、世界のあらゆる民族が、音を楽しむための道具を作ることにはいかに知恵をこめてきたか、人間にとって音楽とは何なのかを民族楽器をとらえて実感し考え、楽しむ場であること、世界中の民族楽器を一堂に見られることで、地域による楽器のデザイン、材質、構造、譜記の方法など民族による文化の違いや演奏のしかたなどとともに、すべて手作りの素晴らしさも理解していただけるでしょう。

遊びながら気楽に学べる遊園地と現代の正倉院を目指しています。



豊橋市二川宿本陣資料館



所在地 〒441-31 豊橋市二川町字中町65番地

TEL (0532) 41-8480

交通 JR東海道本線二川駅下車徒歩10分

沿革 昭和60年に旧本陣のご当主馬場八平三氏より屋敷地の寄付を受けたことを契機として、昭和62年に市史跡に指定し、翌昭和63年より3ヶ年をかけて改修復原工事を実施しました。平成3年8月より本陣遺構に、近世交通資料を展示する資料館を併設し、一般公開を

おこなっています。

施設 敷地面積 3,338.56㎡

(資料館) 鉄筋コンクリート2階建

収蔵庫 94.1㎡

荷解室 26.28㎡

常設展示室 528.93㎡

企画展示室 68.94㎡

資料室 34.56㎡

(本陣) 木造平屋建

(土蔵) 土蔵造2階建

開館 9:30~16:30 (入館は16:00まで)

休館 毎週月曜日(ただし、この日が祝日・振替休日の場合はその翌日)

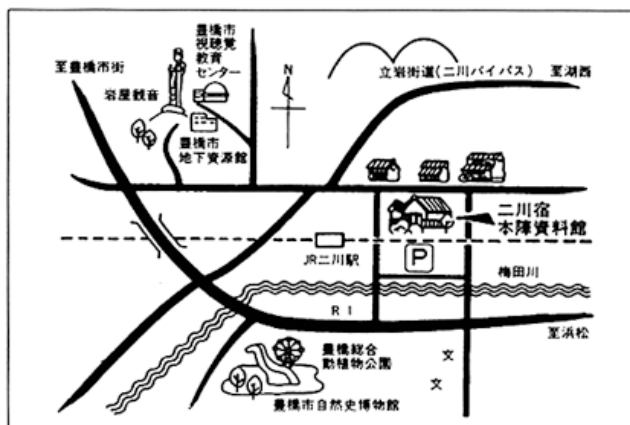
12月27日~1月5日

入館料 一般300円(240円) 児童・生徒100円(80円)

() 内は、30名以上の団体料金

特色 東海道五十三次中、33番目の宿場町であった豊橋市二川地区には、現在でも江戸時代の町割りがほぼそのままの状態に残り、東海道筋では滋賀県草津市の草津宿本陣田中家(国指定史跡)とここだけに現存する本陣の遺構があります。

この貴重な歴史的建造物である本陣の遺構を一般公開するとともに、近世交通資料を展示する資料館を併設し、「東海道」「二川宿」「本陣」という3つのテーマに常設展示をおこない、随時特別なテーマに基づく企画展を開催しています。



「愛知の博物館」No.60

発行日 平成6年9月30日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地

愛知県陶磁資料館内

TEL <0561> 84-7474

FAX <0561> 84-4932